

事業所名

児童発達支援センターひめやま（放課後等デイサービス）

支援プログラム（参考様式）

作成日

8 年

3月

1 日

法人（事業所）理念		「心に寄り添い、思いを受け止め、安心できる居場所づくり」を目指し、地域社会の一員として生活できる基礎基本を培うとともに、自己受容を高める療育を目指し自己肯定感を育みます。個に応じた療育の中で、子どもたち一人ひとりの個性を大切にします。						
支援方針		①多様性とインクルーシブ教育の推進を行う。 ②子どもたちの特性を分析し、一人ひとりに応じた療育を行う。 ③利用者が親亡き後も地域で生活ができるように、保育園・幼稚園・小学校と家庭とを結ぶ地域の中核センターとして運営する。						
営業時間		平日 長期休業日	8 時	30 分から	17 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり
		支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	・連絡アプリを使って、文書や写真のやり取りをリアルタイムで行いながら家庭での健康状態や体調等の把握を行う等、保護者と連携しながら基本的生活習慣の育成を図っている。 ・利用者の障がいの程度に応じて環境調整を行い、身辺自立に関しても本人ができる部分を大切に支援を行っている。 ・給食の時間に摂食指導を行ったり、偏食・小食・アレルギー対応も栄養士と連携し実施している。食後の歯磨きやトイレ等の衛生指導も行っている。						
	運動・感覚	・遊戯室や運動場等での活動において、動作の改善や筋力の維持・強化を図るためにOTやPT等と連携し、療育内容の工夫を行っている。 ・製作活動等を通して手指の巧緻性を身につける題材を設定し、支援に組み込んでいる。						
	認知・行動	・利用者の実態に応じた物や空間の配置を行い、絵カード等を用いながら言語理解や時間・数の概念理解を図ることを療育の内容に織り込んでいる。						
	言語 コミュニケーション	・利用者の実態に応じて言語・コミュニケーション能力の実態把握と能力の獲得を目指し、実践を深めている。 ・様々な社会的活動や地域交流を計画し、集団での育ちを保证するように取り組んでいる。						
	人間関係 社会性	・小集団や個別支援の中で、自己理解を深め行動調整ができるような場面を設定し、様々な活動の中で他者理解も深められるような環境調整を行っている。 ・認定こども園との交流行事（ダンス、防災訓練、クリスマス会、豆まきやひな祭りなどの季節イベント）等、体験活動を多く積むことで、社会性を見につけていく。 ・集団療育の中で、見る、待つ、聞く、指示を理解し従う力をつけていく。						
家族支援		・保護者からの相談に応じて、児童精神科医や専門職等の職員との面談の場を設け、保護者の不安や疑問等の解消に努めている。今後保護者同士の交流の場や、ペアレントトレーニング等の機会提供も検討していく。				移行支援		・移行先の保育所等と情報共有を行う等連携を図っている。 ・利用者の進路選択について、保護者の相談を受ける等支援を行っている。
地域支援・地域連携		・評議委員会や評価委員会などの場面で、地域の方々に障害児・者理解の推進を図り、センターの運営に理解・協力を頂いている。				職員の質の向上		①毎日保育後に職員全員で支援の振り返りや場面検討を行っている。 ②他の事業所の取組を見学し、センターに活かせる部分を学び取っている。 ③随時研修に参加し、復命書の回覧等で情報の共有を行っている。 ④自立支援部会の研修会をセンターで共有している。
主な行事等		クリスマス会といった季節行事や、菜園で野菜を育てたり、収穫した作物を用いた調理実習、買い物学習を行っている。計画的に防災訓練に取り組んでいる。今後は、利用者自身が計画を練り自己決定の場としてのセンター外学習などを組むように、計画していく予定である。						